

予備知識の重要性

— はじめに —

皆さんは、気づいていないかも知れませんが、大学入試の英語問題は世の中の変化と決して無縁ではありません。いや、それどころか、時代や社会と密接にかかわっています。

なぜなら、出題者である先生方が、“いま”という時代に生き、それぞれのやり方であれ、その時代のさまざまな問題と格闘しているからです。また同時に、そのような“問題意識”をもつ学生を入学させたいと考えているからでもあります。

そして、時代や社会の問題を最もよく反映するのが、ほぼすべての大学の英語問題の中でいちばん配点の高い長文問題なのです。

したがって、長文問題で高い点を得るには、いまの時代の抱える問題や変化の流れを知っておくことが、きわめて有効な方法だといえます。つまり、大学が好んで出題するテーマをあらかじめ整理し、その見取り図を頭に入れておくことで、読解が楽になるのです。長文読解問題でよい点を得るには、単語や熟語の力をつけることだけではなく、こうした“予備知識”(背景意識)をつけておくことが大切なのです。

本書では、ここ数年の間に長文問題に頻繁に登場したテーマを、小説とエッセイを除いた12のジャンルに分けてあります。そして、各ジャンルごとに、その概要や入試問題とのかかわりについて解説し、頻出する典型的な内容の文を選んで、ていねいな和訳をつけてあります。

収められている文の内容をきちんと頭に入れておけば、同じテーマのものは、たいていその内容を類推できるようになります。そうなれば、たとえ少しぐらい知らない単語が出てきても、内容からその意味を想像することも可能になります。その結果、長文問題で高得点を期待できるようになるのです。

志望校に合格するための実力アップのためだけでなく、大学での勉強を実り多いものとし、さらには、社会人となってから豊かな人生を送るためにも、本書の趣旨を十分に活かしてほしいと思います。

最後まであきらめずにがんばってください。

2008年9月

古藤 晃